

防風林の底力

帯広畜産大学 辻 修

十勝の風景といえば目に浮かぶのが、広大な畑に縦横無尽に走る防風林です。十勝開拓の槌音と共にこの地に根を下ろした防風林は、今では十勝の顔とも言える風物詩の一つです。この開拓当初から大切な農作物を十勝特有の「馬糞風」から防いできた防風林は、農地区画の拡大化、大型機械の体系化などの影響を受け衰退の一途をたどっています。

しかし、防風林は、作物を風害から守るばかりでなく、作物の増収効果や小動物の生息域、そして美しい農村景観など、その多面的機能が現在見直されているのです。

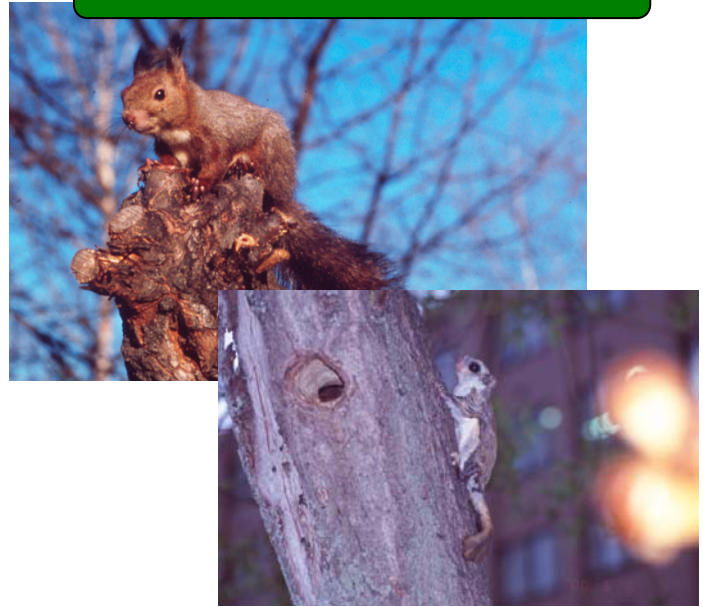
このような美しさを兼ね備えた地域の財産を我々は子孫に引き継いでいく義務があると思いませんか。

耕地を風害から守る防風林



普段は、景観の一部でしかない防風林ですが、強風から身を呈して、耕地を守るのです。

防風林を棲家とする小動物



小さな森に生活する小動物にとって、防風林は、その行動範囲を広める緑の回廊の役目を果たしています。この防風林のおかげで、大きな森が少なくなっていく十勝でも、小動物が生き残っていく底力になっているのです。

十勝の原風景としての防風林



薄化粧の日高山脈を背に春耕を見守る防風林